

今、あなたにできること

「今、あなたにできることは何ですか？」

私は、車の運転ができません。私には、人に分けてあげられるお金もありません。私は、普通の高校生です。でも、無力ではありません。私は、考えて行動することができます。

一年前、宮崎県で口蹄疫が発生し、街のあちこちが白い石灰で覆われました。私が学ぶ高校の敷地内にも、牛や豚が飼育されていきました。毎日、正門前で車両消毒作業をされている先生方や先輩方の姿を見て、何もできない自分が歯がゆくて仕方ありませんでした。

そのような中、食品化学科の先輩方から、「口蹄疫で苦しんでいる農家の人たちのために、ビスケットを製造し、販売した売上金を義援金として提供しよう。」

という提案がなされました。私は、初めて人の役に立てると思い、その活動に参加しました。他にも多くの友達や先輩方が参加し、自分と同じように感じている人がたくさんいるのだと嬉しくなりました。入学したばかりの私たちは、どのようにビスケットを製造するのか分かりません。先輩方に尋ねながら、美味しいビスケットを焼き上げることができました。そして、自分たちの気持ちが伝わるようにとメッセージを書いたラベルをビスケットの袋一つ一つに丁寧に貼り付けました。

「口蹄疫で大変な中、少しでも力になりたいと思い、義援金活動をしています。今、私たちにできることをやっていきましょう。」

五月末の土曜日、町内でビスケットを販売することになりました。最初は、「本当に売れるかな。」

と不安な気持ちでいっぱいでした。けれども、たくさんのお客様に買っていただき、中には、

「お釣りはいらさないから義援金の足しにしてください。」

と言ってくくださる方もいました。

「口蹄疫で被害を受けた人たちのために何かしたい。」

という皆の思いをビスケットという形にすることができたことで、私は、こんな自分でも人のために役に立てるのだという自信をもつことができました。

やがて、口蹄疫も収まり、宮崎県が少しづつ元気を取り戻してきた矢先の一月二十六日、今度は新燃岳が噴火しました。噴石や灰が大量に降り、私が暮らす町は、空も地面も灰色に染まりました。火砕流や土石流から身を守るため、親戚やクラスの友達は避難所での生活を強いられました。私は、いてもたってもいられず、「またビスケットを作って避難所に届けよう。また義援金も集めよう！」

そう思いました。しかし、そのことを相談した先輩から返ってきた言葉は意外なものでした。

「避難所の人たちは、本当にビスケットを必要としているのか？」

「お金を必要としているのか？」

「おまえは実際に避難所に行ってみたのか？」

先輩は、これまでもボランティア経験が豊富で、口蹄疫支援ボランティアでもリーダー的な存在でした。

避難所までは、学校から自転車で十分ほどの距離でした。行ってみると、ホールや廊下は、毛布を敷いて不安な時間を過ごしている人たちであふれかえっていました。

小さな子どもからお年寄りまでが騒然とした中に身を置くしかない状況でした。そして同時に、大量のパンやおにぎりが山積みになっていて光景が目に入りました。噴火から一週間、すでに様々な支援物資が全国から届けられていたのです。避難所で必要とされていたのは、物やお金ではありませんでした。



私は、それから約二週間、放課後になるとクラスの友達と毎日、避難所に通いました。最初のうちは、役場の方やボランティアの方に声をかけていただきながら、支援物資の分配やトイレ掃除などを手伝っていました。三日ほど経つと避難所で生活している方々とも顔見知りになり、

「それぞれの人にとってどのような支援が必要なのか。」

と少しずつですが、自分で考えて行動しようと思うようになりました。そう考えると、自然に一人一人に目を配ることができるようになり、一人で避難生活をしているおじいちゃん、おばあちゃんの姿が気にかかるようになりました。避難生活に疲れ、一人寂しそうにしながらも、遠慮して人になかなかものを頼むことができない気持ち伝わってきたのです。

私は自分から笑顔で語りかけるように心がけ、足が不自由なおじいちゃんに食事を運んだり、おばあちゃんの話し相手になったりしました。私の思い過ごしかもしれませんが、その後少しずつ、おじいちゃんやおばあちゃんの顔が明るくなり、話す声も大きくなったような気がしました。

その後も多くの出会いを通して、あれもこれもはできないけれど、一人一人が相手のことを考えて、自分の立場でできることをすればいいのだと気が楽になりました。

私は、被災した方々のために、ただ、

「何かしたい。人の役に立ちたい。」

という思いで、ボランティアを始めました。避難所では、これまでの当たり前の生活を失い、慣れない他人との共同生活からゆっくりと眠ることもできずに体調をこわすなど、皆さん心身ともに辛く大変な思いをされています。それでも笑顔で

「ありがとねえ。」

「ご苦労さん。」

「お陰で元気が出たよ。」

と言ってくれるおじいちゃん、おばあちゃん。実は笑顔をもらい元気づけてもらっているのは自分の方なのだということに気付きました。人の役に立ちたいと思っていますのに、自分の方が力をもらい、やりがいや喜びを与えてもらっていたのです。ボランティアとは、決して「してあげる」ものではなく、「人と人とのつながり」であり、社会や人のために尽くすだけでなく、自分自身を見つめ直し、成長できる、自分を変えることができるものなのだと思いました。

三月、避難解除となり、噴火が少し落ち着いた頃、私たちは再びビスケットを作りました。今回は、販売するのではなく、昼夜を問わず、支援物資の取りまとめや被災者の支援にあたってくださっている役場の方々に届けることが目的でした。

「いつもありがとうございます。」とメッセージをつけて。



高校生の私にできることは限られています。けれども、何が必要か「見極め」、「考え」、「行動する」ことができず。

小さなことから始めるボランティア。今後も自ら考え行動を起こしていきたいです。

「今、あなたにできることは何ですか？」